

和歌山 **フラフラ** ウォッチング

6

「志原千畳敷 ～層状節理の海岸美～」 (白浜町日置)



白浜町日置にある志原海岸は、雄大な太平洋と優美な砂利浜の海岸線で有名である。しかしながら、千畳敷まで足を伸ばす人は少ない。

海岸線に沿った小道を歩いて小さな入り江に辿り着き、更に右岸傾斜部の岩場に沿って歩を進めると、視界が開け眼前に雄大な千畳敷が広がる。

この辺一帯の岩は層状で海岸にせり出し、特異な景色を見せている。足元の岩場は四角い石を敷き詰めたような石畳状態であり、自然が創り出したプロムナードである。あちこちに洞窟（奥行きはあまり無い）が見られる。行き着く所まで行くと、鼻の穴のように、二つ並んだ洞窟がある。層状節理の岩盤であるため、天井部分が平板の特異な構造をしている。

波の浸食によりこのような洞窟ができたのであるが、何千万年という想像を絶する長さの時間を要した地殻変動がもたらした層状節理と、海という自然がぶつかり合うこの地だからこそ見られる奇景である。

紀南方面にドライブの際は、是非立ち寄って見ることをお勧めしたい。



(取材：萬羽)

「大師の井戸 ～紀州の名水百選～」 (紀の川市粉河町東野)



その昔、みずばらしい法衣を着た坊さんがこの辺りに通りかかり、庄屋の家の前に立って、水を恵んでもらった。その際庄屋の人は「この辺の水は鉄気が多くて」と恐縮しながら差し出した。すると、このお坊さんは「鉄気が多いのではさぞやお困りでしょう」と持っていた錫杖を地面に突いたところ、なんと不思議なことにそこから真水が湧き出してきた。

その後この辺りの人々は、「あの坊さんはきっと弘法大師に違いない。」と信ずるようになり、「大師の井戸」と愛称され現在に至っている。この井戸水は、夏は冷たく冬は暖かい。日照りで周辺の井戸が枯れてもこの井戸水だけは枯れる事がないという。

件の井戸は常時蓋がされているが、蓋を取って中を覗いてみると、きれいに透き通った約1mくらいの深さで、「紀州の名水百選」に指定されているそうである。

国道24号線に並行して、大和街道が走っているが、そぞろ歩きの際は、是非立ち寄ってみたい場所の一つである。



(取材：萬羽)